

編集後記 2013.12.10
坂井 克郎

慶應義塾大学
理工学部創立 75
年を迎えるにあ

たり、塾が発行する『慶應義塾大学理工学部 75 年誌』編集への協力と、『慶應義塾大学理工学部体育會 75 年史』の刊行が決まったのは、2011 年 12 月 21 日に開催の理工学部体育会先輩団体連合会理事会であった。2012 年 1 月 14 日には、第 1 回理工学部体育会 75 年史編集委員会が開催され、日比谷編集委員長のもと刊行に向けて準備活動がスタートした。

理工体 75 年史発行の目的は、①理工体の 75 年に亘る歴史資料としてまとめ次代へ伝える、②理工体の活動の現況を教職員、塾員、塾生に広く訴え認知度を高める、③理工体会員 (OB/OG・現役) のみならず各部所属連盟校と親交を深め良き友を得る、ことである。

工学部が小金井から矢上に移転してからは、理工学部生のみならず、三田の文系学生、さらには湘南藤沢キャンパスの学生も活動に参加するようになり、理工体活動の活性化に貢献すると共に、文理融合が実現できる場となっている。同時に、理工学部生は塾体育会にも参加しており、体育会部員の 10%は理工学部生となっている。

75 年史編集の過程で、多くの部が創部から現在までの活動や戦績について、自分たちの歴史を改めて学ぶという機会を得た。そして、現役の学生は先輩の創部時の思いを受け継ぎ、しっかりと活動している。

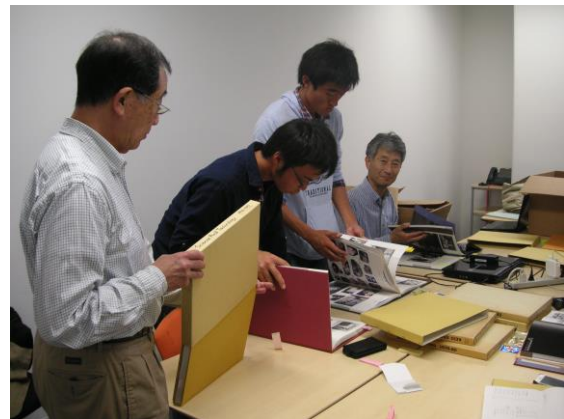
編集委員会における検討の結果、理工体の特徴として、エビデンスを重視すること、各部 A4 判 6～8 ページのカメラ・レディの原稿を、読み易いものとして準備することを申し合わせ、テンプレートを添えて各部に原稿作成を依頼した。さらに、電子版を作成し、動画も記録に残すことにした。

現在活動中の理工体加盟部に限るのか、休部中の団体も含めるかなどについても検討を行い、理工学部生が活動していた理工体全ての部の活動を

網羅することにした。各部設立の時期、歴史の違い、部誌発行経験の有無、OB/OG 会の運営体制の相違等、足並みをそろえるのに時間を費やした。

初めての 75 年史であるので、藤原工業大学予科時代の「鍛錬部」各部の活動状況、戦中の疎開および戦後の仮校舎時代を経て、小金井における工学部の復興時代の各部の再興と活動状況、矢上キャンパス移転期の活動状況等の再現を試みるべく、資料探しと写真集めから始めた。しかし、どの時代も資料不足であった。1 期代の先輩諸氏を訪問して資料を拝見させて頂くと共に、藤原工大予科誌、1 期代の卒業 50 年の記念誌、さらに卒業アルバムなどの収集、整理を行った。これをサーバー上にアップロードして、各部で情報を共有しながら作業を進められるよう環境を整備した。卒業アルバムの理工体のページは、理工体の歴史を概観するのに優れた資料であった。

藤原工大予科誌などを総合すると、鍛錬部 (現在の理工体の礎) として 14 部あったことが判明した。戦争で 5 年ほど中断したため、小金井における工学部の復興と部活動が再開した際には、残念ながら継続性が途切れてしまった部もあった。また端艇部、ヨット部のように、藤原工大鍛錬部時代に創部し、小金井時代、矢上移転後も活発に活動していた部のいくつかは、部員不足で現在は休部していることも判明した。また、重量挙部や空手部



現役と OB の共同による卒業アルバム調査

の場合は、矢上移転後に活動の中心を塾体育会に移している。こうした部においても、OB/OGの協力を得て75年史の原稿を取りまとをお願いした。

各部の創部からの歴史を眺めてみると、特に小金井へ移転した時期には、大学の復興のみならず、グラウンドや稽古場などの施設の充実にあたって、慶應義塾の理解のもと、教員、学生が一体となって協力したことが理解できる。また、部員数の増減がどの部にもあり、活動の維持と発展にさまざまな努力をしてきたことが読み取れる。主に関東理工系大学リーグで活躍しているが、全日本選手権レベルの大会で活躍している部も存在する。

各部6～8ページの範囲での取りまとめであり、十分に歴史、活動、対戦成績等を述べるには不足するものと思われるが、簡潔にまとめられている。これにより、75年に亘る歴史資料として次代へ伝えること、活動の現況を教職員、塾員、塾生に広く知ってもらい、そして、理工体会員(OB/OG・現役)および各部所属連盟校との親交を深めること

役立つものと確信している。理工体のホームページも完成したので、理工体活動の意気が益々上がることを期待したい。この機会に収集された膨大な文書、写真、ビデオ等の資料は、次代に供するためにアーカイブしてゆく方針である。

75年史編集の過程で、大野義夫理工学部名誉教授のご協力により、藤原工大日吉キャンパス、ならびに、小金井キャンパスの校舎をコンピュータグラフィクスにより再現することが可能となった。理工学部体育会の歴史に思いを馳せるよすがとしてご覧頂ければ幸いである(慶應義塾大学理工学部體育會75年史DVD編)。また、大野名誉教授には、学術誌編集の経験から、さまざまなヒントを頂戴すると共に、各部原稿の整形にも多大な協力を頂いたことに感謝申し上げる。

資料調査では、塾監局管財部、理工学部総務課、理工学メディアセンター、物理情報工学科事務室、理工学部同窓会事務局ほか、多くの同窓会員の協力を得たことをここに記してお礼申し上げます。

慶應義塾大学理工学部體育會75年史編集委員会

事務局：

日比谷孟俊(編集委員長)、坂井克郎(副編集委員長)、
宮崎吾郎(理工学部體育會先輩団体連合会会長)、大野義夫(理工学部名誉教授)

委員：

星野広友(剣道部)、渡辺絢子、中村悦子(硬式庭球部)、宮永富士男(硬式野球部)、
大岡勇太(サッカー部)、山本健二(山岳部)、吉田武弘(卓球部)、
鮎澤俊彦、許斐義信(端艇部)、清水洋二、八木祐治郎、清水慶一(軟式庭球部)、
宮田輝之、黒木健一郎(軟式野球部)、伏見知行、古谷恵慈(バスケットボール部)、
佐野博崇(ヨット部)、永野幹晴、佐藤憲一(ラグビー部)、岩崎修平(重量挙げ部)、岩崎信義(柔道部)、
和田陽一(空手部)、天明成元(ゴルフ部)、飯島滋(水泳部)、麻植衛(バレーボール部)、
鴨下勝、渡辺康隆(スキー部)、淵昌彦(少林寺拳法部)、伊豆田修祐(體育會航空部)

電子化担当学生委員：

奥村幸弘、守谷赳夫、叶賀卓、林修平、太田力